

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会  
地上デジタル放送方式高度化作業班（第2回） 議事概要

1 日時

令和2年2月5日（水） 13:30～14:45

2 場所

総務省 講堂

3 議題

- (1) 前回議事概要の確認
- (2) 地上デジタル放送方式の高度化の要求条件（案）について
- (3) 放送用周波数を有効活用する技術方策に関する調査検討について
- (4) その他

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】 大槻主任、松田主任代理、岩尾構成員、岩田構成員、大久保構成員、岡村構成員、斉藤構成員、斎藤構成員、高田構成員、高柳構成員、土田構成員、中井構成員、中原構成員、沼尻構成員、深澤構成員、藤井構成員、藤高構成員、森吉構成員、山影構成員、山口構成員、山下構成員

【事務局】 情報流通行政局 放送技術課

5 配付資料

- |             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| 資料デ高作 2-1   | 地上デジタル放送方式高度化作業班（第1回）議事概要（案）       |
| 資料デ高作 2-2-1 | 要求条件（素案）に対する構成員からの意見について           |
| 資料デ高作 2-2-2 | 地上デジタル放送方式の高度化の要求条件（案）             |
| 資料デ高作 2-3   | 放送用周波数を有効活用する技術方策に関する調査検討の実施状況について |
| 参考資料        | 地上デジタル放送方式の高度化の要求条件（素案）            |

6 議事概要

- (1) 前回の議事概要（案）の確認について  
資料デ高作 2-1に基づき、地上デジタル放送方式高度化作業班（第1回）議事概要（案）の確認を行った。（意見等なし）
- (2) 地上デジタル放送方式の高度化の要求条件（案）について  
事務局より、資料デ高作 2-2-1、デ高作 2-2-2 及び参考資料に基づき、要求条件（素案）に対する構成員からの意見について説明があり、主に以下の質疑応答が行われた。
  - エディトリアルな話になるが黒丸の1番目は、「超高精細度テレビジョン放送『に』に係る」が正しいと思う。「に」が抜けている。（山下構成員）
  - 導入方策の在り方について、「受信者に対して過度な負担が生じないように、慎重

に検討することが必要である。」と書いてあるが、これは送信側についても言えることなので放送事業者に対しても過度な負担にならないような文言とした方が良いのではないか。(山下構成員)

- 過度な負担を生じないようにしなければいけないのは受信者だけでなく放送事業者やその他の方々もいるので、受信者に限らずもう少し広い表現で読めるように検討する。(事務局)
- No98の受信機と受信機という2つ言葉があると思うが統一したほうが良いのではないか。(藤井構成員)
- 統一する。(事務局)
- (1)システムのサービスエリアの項目に「固定受信では現行地上デジタルテレビジョン放送と同程度とすること。」と記載があるがこれは、所要受信電界を現行方式と同程度確保するという理解でよろしいか。ネットワークを含めて今と同じサービスエリアを確保するということか。もしそうなら書きぶりを考えた方が良いのでは。(山下構成員)
- 記述の意図としては一つの無線局としての放送局のサービスエリアが技術的には同程度確保できる規格とすることが必要ということ。文言としてどのような表現がよろしいか。(事務局)
- 例えば同程度の所要受信電界が必要と書くのが良いのではないか。現行の地上デジタル放送ネットワークのエリア全てでの高度化がマストであるような話に見えかねないので、その辺を明確化した方が良いと思う。(山下構成員)
- 表現ぶりについては検討する。なお、ここは放送ネットワークとして現行と同じサービスエリアを確保すべきという趣旨の記載ではなく、あくまでも技術的な条件の検討であり、その点は補足しておく。(事務局)
- 「固定受信では現行地上デジタルテレビジョン放送と同程度とすること。」の部分で同程度の所要電界という話が出てきたが、これは同じエリアでも所要電界は変わるかもしれないので、同程度の所要受信電界という言葉は必要ないと思う。(中原構成員)
- サービスの項目のNo8に「1つのチャンネルで複数のサービスを提供可能なこと。」とあるが、当初案の「マルチチャンネルに対応可能なこと。」と同趣旨に受け止められるかどうか、懸念がある。サービスという語句には番組や双方向を含め、さまざまな意味があるため、もう少し表現を工夫できないか。新設の項目とまとめて良いのではないか。(高田構成員)
- ご指摘の通りサービスという言葉がたくさん出てきているので整理したい。(事務局)
- 資料デ高作2-2-2の受信機の部分No108, No109, No112, No113の言葉のところで「考慮されていること」、「開示されていること」というような形で書かせていただいているところだが、前回の議事の中に、要求条件で「考慮されていること」と書かれている部分については必要条件ではないという理解でよろしいかとい

う話もあったことから、受信機というところではあるが「考慮されていること」という表現で良いかについて改めてご確認いただきたい。(事務局)

- 今回の技術的条件は放送波についてのものと理解しているところ。受信機についてはフレキシビリティに対応していくことと認識しており、そこはある程度商品企画や民間規格というところでやってもらう。受信機に対して強制すると趣旨に反すると思うがいかがか。(高柳構成員)
- 「考慮すること」という部分について強制的に書くというような意図はないが例えば、No113のサイバーセキュリティの部分について「考慮すること」と書くことについてご意見を伺いたい。(事務局)
- サイバー攻撃に関しては受信機メーカーへのダメージになってしまうので基本的にはそういうふうにやっていただければと思う。何をもってサイバー攻撃とするかは今わかる話ではないので最善を尽くすということで良いと思う。(高柳構成員)
- 「考慮すること」と「考慮されること」という2つの表現があるので同じ意味合いであれば一つに統一したほうが良い。(山口構成員)
- 文言については少し見直して統一できるところはするということをお願いしたい(大槻主任)

(3) 放送用周波数を有効活用する技術方策に関する調査検討の実施状況について

斉藤構成員より、資料デ高作2-3に基づき、放送用周波数を有効活用する技術方策に関する調査検討の実施状況について説明があり、主に以下の質疑応答が行われた。

- 資料デ高作2-3のうち、WG2-5の“関東地区におけるチャンネル再配置案の検討と分析”に、“新たに2、3、6チャンネル見いだす場合”と記載されているが、関東地区では地デジ中継局が周波数を緻密に有効活用しており、簡単にチャンネルが見いだせるわけではない。これは一定の前提にもとづく机上検討であり、実現の見通しが立ったわけでもないので、本資料が公表されても誤解を生まないよう、コメントしておきたい。(高田構成員)
- 確認ですがWG4-2の実験は当初計画案通りに順調に進んでいるという理解でよろしいか。(大槻主任)
- 仕様書に基づいて電波を発射して測定をするということなのでいうと計画通りに進んでいる。(斉藤構成員)
- 全体的に順調に進んでいるということによろしいか。(大槻主任)
- 変復調器の整備がギリギリになるなど必ずしも全部が順調とは言えないが、計画通りには進んでいる。(斉藤構成員)

(4) その他について

事務局より要求条件(案)については、2月中旬に開催予定の放送システム委員会において報告いただく予定であること及びその後で次世代地上デジタルテレビジョン放送方式の提案募集を行なう予定である旨連絡を行った。

また、次回の作業班の開催日程については、別途調整する旨連絡を行った。

(5) 閉会

以上